

### 1 県立公園 あわじ花さじき

標高約300mの丘陵地に広がる花畑。明石海峡や大阪湾を借景に四季折々の花が咲き誇り、初夏はポピーやキンギョソウが見られます。

所 淡路市楠本2805-7 時 9時～17時  
(最終入園は16時30分) 休 年末年始  
☎ 0799(74)6426 ☎ 0799(74)6428

色とりどりに咲き誇るポピー  
(4月下旬～5月下旬)。



花みせフェア(春期は5月30日◎まで)のサテライト会場としてオリブの木を展示。



空中回廊を利用すれば展望デッキまでバリアフリー。

いとご丸ごと!

島の恵み  
豊かなまち  
(淡路市)



お出掛けの際は新型コロナウイルス感染予防対策に取り組みましょう。

### スモークロー (ロースト淡路牛)

スモークローは、ナイフとフォークで食べるライ麦パンのオープンサンド。一番人気の「ロースト淡路牛」には、淡路牛のローストビーフやフライドオニオンなど島の美味がたっぷり。1,100円。

☎ Galleri(あわじ花さじき内) ☎ 0799(75)3710 ☎ 0799(73)6770

グルメ



イチゴ狩りは1日20人限定。ほぼ貸し切り状態でゆったりと楽しめます。料金(3月～6月)は大人1,800円、小学生1,400円、2歳～小学生未満1,000円。

### 2 大坪だんだんファーム

30分間食べ放題のイチゴ狩り(要予約)は6月中旬まで。土曜、日曜、祝休日は、手作りのフルーツパフェなどが味わえるイトインコーナーも。

所 淡路市生田大坪338付近 時 10時～16時(イチゴ狩りは15時まで)  
休 不定休 ☎ 0799(70)5229

イトインコーナーの一押しメニュー「ゴロゴロいちごのプレミアムパフェ(900円)」※6月中旬まで



### 3 和紙工房 松鹿

作業風景の見学のほか、紙すき体験や和紙で小物を作るワークショップも受け付けています(いずれも前日までに要予約)。

所 淡路市里295 時 10時～16時 休 不定休  
☎ 090(3992)6243

紙すき体験(おぼき4枚500円)では、色付けしたり、押し花を入れたりして、オリジナルデザインの和紙が作れます。



井戸水を使用。木枠も奥田さんの手作りだとか。

### 大坪だんだんファームの自家製フルーツジャム

農家のお母さんたちの手作りジャム。同ファームや近郊で取れたフルーツをふんだんに使用しています。1個450円(「いちごジャム」のみ500円)。

所 大坪だんだんファーム ☎ 0799(70)5229

お土産

3個セットを抽選で3人にプレゼント

詳細は6面のクイズへ



花と緑あふれる島に  
自然の恵みを訪ねて

芽吹きの季節、淡路島では山の緑や花畑の色彩が鮮やかに輝きます。丘の上の花畑「県立公園あわじ花さじき」には昨春、「あわじ花さじきテラス館」が誕生しました。もともとあった展望デッキと空中回廊でつながり、2階にはカフェレストラン「Galleri(ギャラリー)」も。デンマークの国民食、スモークローを味わえる全国でも数少ない店です。「デンマークの人々は心を豊かにするための時間を大切にします」と話すのは、メニュー監修と総合プロデュースを担う前田慎也さん。海原と花畑を望むカフェは、心豊かに時を過ごす特等席です。

淡路市中部に位置する生田大坪地区では近隣の農家が手を組み、集落営農を展開しています。昨年2月には新たな試みとして、イチゴ狩りが楽しめる「大坪だんだんファーム」をオープンしました。「いづれはイチジク狩りやブドウ狩りもできれば」と代表の岡田昭男さん。直売コーナーに並ぶ新鮮な野菜にもぎたての果実が加わる日も遠くありません。

さらに南下し、島唯一の和紙職人のもとへ。「和紙工房 松鹿」の奥田好治さんは、島内に自生するコウゾを原料に紙をすいています。タマネギやユウカリで染めたり、近所で摘んだ草花を押し花にして挟んだり。出来上がった和紙からは島のぬくもりが伝わります。

(取材・文 民だより編集部)





毎年10月の「多文化フェスティバル深江」は10回以上を数え、地域の恒例行事として定着しています(写真は令和元年)。

地域の皆さんによるふるさと活動をご紹介します

# みんなでふる活



## 多文化共生センターひょうご(神戸市東灘区)

メンバーは代表の北村さん(中)をはじめ、在宅を含めて4人います。

### 外国人住民の暮らしをサポート

生活相談を中心に外国人住民の支援を展開。昨年度はコロナ禍での活動が評価され、「地域再生大賞」の優秀賞に輝きました。

#### 本年度の主な活動予定

- 夏  
大学進学を希望する外国人に付き添い、オープンキャンパスに参加  
大学の雰囲気確かめることが大事です
  - 9月  
深江地区の敬老会に民族衣装の試着体験コーナーを出展
  - 10月  
「多文化フェスティバル深江」を開催  
昨年も感染対策を施して開催しました
  - 3月  
交通ルールの啓発絵本を発行
- ☎ 多文化共生センターひょうご  
☎ 078(453)7440(金曜13時~18時)

**外国人の子どもと地域住民との触れ合いを**

同センターは平成12年、外国人労働者が多い神戸市東灘区深江地区に設立。役所の手続き、電車の乗り方など、あらゆる相談に対応しています。「昔前は外国人自ら相談に来ていましたが、近年は、地域の人からの『外国人にどのような支援をすればいいか』といった問い合わせが増えました」

現在、北村さんが課題の一つに挙げるのが、外国人の子どもの非認知能力の育成です。協調性や粘り強さといった数値で測れない能力は、親以外の大人や同年代の子どもの触れ合いによって養われることから、「子育てサークルなどに働き掛け、地域の人と接する機会を設けられれば」と語ります。これからも活動を通して日本人と外国人との距離を縮め、誰もが暮らしやすい社会づくりの一翼を担っていきます。

(取材・文 県民たより編集部)

**コロナ禍により啓発絵本が反響を呼ぶ**

地方新聞46紙と共同通信社が、地域活性化に成果を挙げた団体を表彰する「地域再生大賞」。昨年度は「コロナ禍を越えて」をテーマに全国50団体が推薦され、「多文化共生センターひょうご」は外国人住民への相談対応に加え、五つの言語で手洗いと歯磨きの正しい方法を解説した啓発絵本の発刊が評価されて優秀賞に選ばれました。

「発行とコロナ禍が重なったのは全くの偶然でした」と代表の北村広美さん。県内の外国人コミュニティや地域の図書館などに寄贈したところ、多くの反響があったといいます。

啓発絵本「げんきなてとははびっかびか」は同センターのホームページからダウンロードできます。



## 元気コラム 淡路島と花博

兵庫県知事 井戸 敏三

### 花の島

淡路島というと何を思い出されるでしょう。まず、国生み神話の舞台となった「おのころ島」。次は、朝廷への食料基地として称されてきた「御食国」。三つは、「花の島」。カーネーションをはじめ、多種類の花の産地となっている。

### 淡路花博20周年記念花みどりフェア

この「花の島」で、淡路花博20周年記念「花みどりフェア」が開催されている。「ジャパンフローラ2000」(淡路花博)が目指した「人と自然との共生」の理念を継承発展させるため、「みなとつながる『花 緑 食の島』淡路」をテーマに、淡路夢舞台や淡路島国営明石海峡公園など4つのメイン会場のほか、76施設のサテライト会場で実施している。

テーマ別に主な展示や行事等を紹介すると次の通り。

まず、豊かな自然・温泉に恵まれた癒やしの島である。国営公園において春はチューリップ、秋はコスモスを中心として驚きと感動を与えてくれるほか、高校生による花とみどりのガーデンや淡路島体験クルーズなどが予定されている。

次に、歴史と文化薫る国生みの島である。淡路人形浄瑠璃の特別公演、松帆の銅鐸の展示などが開催される。

三つは、和食のふるさと御食国の島である。淡路島の良質な食材を堪能できるイベントや「島スイーツ」を楽しむ事業などが展開される。

### これまでの花みどりフェア

平成12年に開催された国際園芸・造園博「ジャパンフローラ2000」は、人と自然のコミュニケーションをテーマとし、700万人の来場者を数えた。メイン会場の国営公園は花と緑で埋め尽くし、人が破壊した自然を人が回復させ、自然と人が共生する新しい姿の表現を目指した。淡路花博から10

年後、15年後にも「花みどりフェア」が開催された。淡路花博20周年記念「花みどりフェア」は、連続と先催の花みどりフェアを継承し、発展させようとしているのだ。

### 新型コロナウイルス感染症対策

淡路花博20周年記念「花みどりフェア」(春期)は、万全の感染症対策を行っている。まず、入り口での検温、マスク着用、消毒液の設置のほか、兵庫県コロナ追跡システム等の活用、3密の回避、イベント会場ごとの滞留者数の上限の設定を行う。飲食対策としては、飲食エリアの限定や、飛沫感染防止対策などを徹底する。

### 花みどりフェアの成功を

花とみどりを仲立ちとして、人と自然との交流をベースに淡路島で繰り広げられてきた淡路花博の20周年の節目に開催されている本大会のご支援とご支持をお願いするとともに、ぜひ、ご来場いただきたい。必ずご満足いただけるはずだ。

\*全文はホームページでご覧いただけます 兵庫県 知事エッセー